

SPSSの測定手順

底質採取

干潟や海底の泥や砂を採取します。



ふるい分け

網目の大きさ4mmのふるいにかけます。



計量分取

ふるい分けした底質から、計量スプーンなどで試料を取り分けます。試料量は赤土等の堆積状況に応じて、5mL、25mL、50mL、100mLのいずれかを入れます。(堆積が多い場合は5mLなど)



希釈・攪拌

試料をメスシリンダーに入れ、澄んだ河川水または水道水を入れ、水の量が全部で500mLになるようにします。水を入れたら、泥の固まりなどがなくなるようによく混ぜます。



静止

かき混ぜた後、メスシリンダーを置いて、1分間静止させます。



透視度計に注ぐ

メスシリンダーの水を底に沈んだ泥などが舞い上がらないように静かに透視度計に注ぎます。



透視度を測定

透視度計を真上から覗き、底の二重線がはっきり見えるまで中の水をこぼしていきます。はっきり見えたところで水位が何cmあるか、透視度計の目盛りを読んで計ります。



透視度が5cm未満の場合

分取を行う

メスシリンダーから赤土等の濃さに応じて100mL、50mL、25mLの水(かき混ぜた直後の濁ったもの)を別のメスシリンダーに取り分けて、再度全部で500mLになるまで澄んだ水を入れます。これをかき混ぜてから1分間静止させ、透視度計で計測を行います。

透視度が5cm以上の場合

赤土等濃度を換算する

赤土等濃度換算表を使って、透視度(cm)、試料量(mL)、分取した場合は分取量(mL)、それぞれの数値から換算赤土等濃度を読み取ります。単位は kg/m^3 になります。

赤土等濃度換算表

は「沖縄県衛生環境研究所」ホームページ <http://www.eikanken-okinawajp/mizuG/akahp/Seatable.htm> の「干潟や海底の底質中懸濁物質含量 (SPSS) 換算一覧表 (単位: kg/m^3)」を参照してください。